

# 初等教育からSTEMと英語教育を徹底 「世界を変革できるイノベーター」へ 人に寄り添い、未来を切り拓く教育

ローラス・インターナショナル  
スクール・オブ・サイエンス



未来を切り拓く一つの選択として、アントレプレナー教育も計画中です。ビジネスマインドの基本は、他者が抱える問題を解決したいという思いやりの気持ちだと思うので、人に寄り添えるモラルや価値観の醸成にも力を入れています」と校長はビジョンを語る。

授業はすべて英語だが、土曜日は日本語で各教科授業を行うほか、日本独自の文化や習慣も指導する。今は中学課程（中等部）、高校課程（高等部）をつくる計画が進行中だ。

「全寮制にすれば海外からの留学生も受け入れられるでしょう。国や自治体が数年かける改革に1日で着手できる機動力を、これからも最大限に発揮していきます」とさらなる展開をめざしている。

ローラス・インターナショナルスクール・オブ・サイエンス（港区白金台、日置麻実校長、03・5422・7390、<http://www.laurus-school.com/>）は、STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics : 科学、技術、工学、数学) と英語教育を2本柱に据えたインターナショナルスクールだ。育成する人材像として、「世界を変革できるイノベーター」を掲げている。

日本にあるユニークなスタートアップスクールとして、中国やロシアから視察団が来校し、スカイプを通じてドバイやオーストラリアのスクールと授業を共有するなど国際交流が盛んだ。児童の保護者は、次世代型の教育を模索する医師や大学教授、起業家（アントレプレナー）が多いという。

「STEMとアントレプレナーシップの思想は大変親和性があり、



積極的な国際交流を通して、  
科学、技術、工学、数学への  
関心を育む

